

のっぽの手

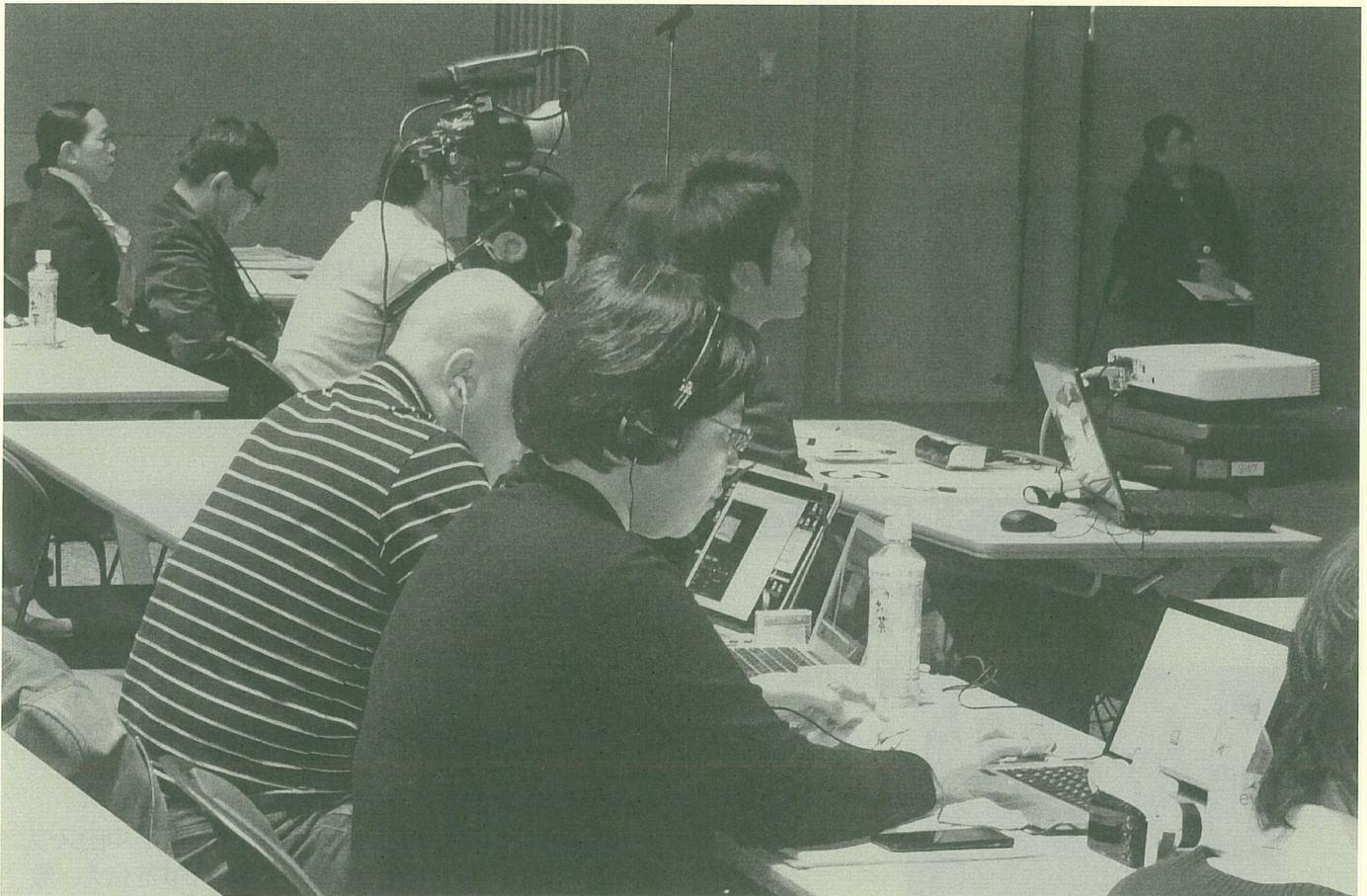
認定 NPO 法人 ふくしま NPO ネットワークセンター通信 vol.55 2014. 12月号

ペイパルはじめました

充実した活動のために広く寄付金の募集をおこなっておりますが、当センターのHPからpaypal：クレジットカードからの寄付が可能になりました。福島を未来へつなげるためによりしくお願いします。

◆Contents.....

- 「地方共助社会づくり懇談会 in 福島」開催
- 「助成財団シンポジウム in ふくしま」開催
- 「まちの駅全国フォーラム in 本庄」参加報告
- 2014年度ふくしま元気市民活動助成金選考結果速報
- 「全国ボランティアフェスティバルぎふ」参加報告
- 講座案内
- 理事長より



ライブ配信にとり組むスタッフの真剣な横顔

ふくしまからの発信 ~ SNS を活用して~

「地方共助社会づくり懇談会 in 福島」(11/8開催)は、内閣府、福島県、ふくしま NPO ネットワークセンターの主催者で開催され、事務局のふくしま地域活動団体では、一人でも多くの皆さんに懇談会のようすをお伝えするために、Ustream にライブ配信をしました。アングルや声のトーンなどに細心の注意を払うため、スタッ

フの表情は緊張感を帯びていました。また、リアルタイムで Facebook と Twitter に進行状況が随時 UP され、臨場感ある情報発信に努めました。これからも SNS など積極的に活用した情報発信にとり組みます。

※懇談会の模様は You Tube でご覧いただけます。
<https://www.youtube.com/channel/UCi11115rYWqvjQ5yX1oLRRw>

地方共助社会づくり懇談会 in 福島 開催報告

～福島の復興に向けた市民活動の動向～

山粧う秋の気配が深まるなか、11月8日(土)、内閣府、福島県、認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンターの主催で「地方共助社会づくり懇談会 in 福島」が開催されました。同懇談会は、現在の地域社会の実情をもとに、各地の県民と意見交換をするものです。「共助社会」とは、行政だけでなく住民組織やNPO、企業など多様な主体によって地域を支えていく社会です。

福島県では、東日本大震災を契機にNPO・ボランティアをはじめとする市民活動が活発化していることから、復興に向けた市民活動の現状と課題や今後の可能性などについて議論を深めました。県内外から、140名を超える参加者があり、これからの目指すべき「共助社会」のあり方について、また、福島の「今」を伝えました。

福島県文化スポーツ局鈴木千賀子局長の開会挨拶の後、共助社会づくりについて、奥野信宏座長(共助社会づくり懇談会)が基調講演をおこないました。多様な主体との参加、連携のなかで、NPOの力や市民活動の力の重要性をお話されました。災害に強い魅力ある街づくりの視点からは、防災訓練だけではなく、地域間での日々のつながりが大切で、なによりも常時の楽しみが、非常時の力になると論述されました。

つづいて、福島県における東日本大震災後の市民活動団体(NPO法人)の取り組みの紹介として、特定非営利活動法人ふよう土2100の大澤康泰氏から、引き続いて、特定非営利活動法人コースターの岩崎大樹氏から、自団体での取り組み事例が紹介されました。

後半は、「福島の復興に向けた市民活動の動向～震災以降の歩みと今後のあり方～」と題し、奥野氏がファシリテーターとして、パネルディスカッションをおこないました。大久保朝江氏、星野珙二氏、鎌田千瑛美氏、鈴木典夫氏がパネリストとして登壇、同じく甚大な被災を受けた宮城県内のNPOとして、福島県内の中間支援NPOとして、また、震災復興の活動拠点のNPOとして、また、福島大学の学生を中心としたボランティア支援として、それぞれの見地、立場から震災からの取り組み、今後の方向性についての提案を模索しました。

今回の懇談会は東北地方での最初の開催です。厳しい避難生活を余儀なくされている方が多い現状があるなか、「新たな公」としての役割が期待されるNPO、そしてボランティア等の市民活動の裾野の拡大に向けて、全員参加の「共助の精神」のメッセージを発信しました。

ふくしま地域活動団体サポートセンター
サブチーフ 伊藤 孝信



パネリスト4名によるパネルディスカッション



“共助社会”のあり方を考える



基調講演に熱心に耳を傾ける参加者

「まちの駅全国フォーラムin本庄」に参加して

今年で17回を迎える平成26年度のまちの駅全国フォーラムが、10月31日に埼玉県本庄市で開催されました。この大会は、全国各地のまちの駅の活動と課題そして情熱が一堂に会し、共有してそれぞれの地域での更なる展開へのスタートとなる大事な大会です。

大会は、「まちの駅一座」による会場劇風のフォーラム、ワールドカフェ形式の分科会・全体報告会などユニークな手法を取り入れて行われました。

テーマは、本庄の特徴・良さの確認とPR、今後の埼玉県内のまちの駅の新設(現在60箇所)、全国のまちの駅との親密なネットワーク構築、更に本庄市のまちおこし・まちづくりへの展開を目指しています。

「まちの駅一座」による会場劇は、会場に分散した本庄市のまちの駅の方々がまちの生活、繋がり、まちづくり、将来像などについて演じるものでした。まちの駅それぞれが10人の友達を招待して行われ、市民に扮した市長も演者として参加



フォーラム「まちの駅一座」会場劇参加者全員で



交流会 去年の大会開催の福島県の参加者紹介

していました。劇は2時間近く行われ会場の雰囲気はその情熱にあふれていました。

分科会は、4人グループ3ラウンドのワールドカフェ方式で行われ、60～70人で行われました。フォーラムの感想と、まちの駅の在り方を探るフリートークで活動事例や課題を共有しました。じっくり話すことができ、多くのグループで満足したようすがうかがえました。

会場は本庄市民文化会館で、まちの駅関係者210名、一般450名合わせ660名を超える参加者で開催されました。福島市からは4団体7名、福島県全体では6団体17名の参加となりました。その後場所を変え郷土芸能を観劇しながらの交流会となりました。

今回の全国フォーラムは福島のまちの駅の新しい姿を考えさせるユニークな大会でした。日々変化し成長する楽しいまちの駅を目指したいと思います。

まちの駅 ふくしま情報ステーション所長
丹治 武志

「長良川にこころ清められて」

～全国ボランティアフェスティバルぎふ
参加報告～



揃いの絆纏でPR
「来年、福島で会い
ましょう!」

2015年11月21日～22日開催「全国ボランティア大会ふくしま」に向けて実行委員会では準備が進んでいます。当ネットワークセンターの佐藤和子副理事長は実行委員、齋藤は専門部会の企画・広報副部長としてご協力させていただいております。

今年度は2014年9月27日～28日に岐阜県岐阜市で全国大会が開催され、来年の開催地として福島県を代表し、実行委員をはじめ専門部局長など18名が参加しました。

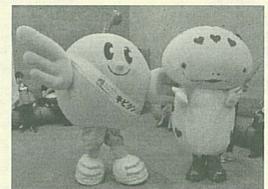
岐阜大会では長良川の清流を人の流れや志に表現したテーマのもと、全国から1,900名を超える参加者のもと、基調講演や29を数えるテーマの各分科会ではボランティアの意義を確認し、トークセッションではあらたな協働を探りました。

閉会式の引き継ぎ式では、福島を代表して中田スウラ実行委員長が福島の「いま」のようすを伝え、最後に「来年、福島でお会いしましょう!」とあいさつすると会場から大きな拍手が送られました。

岐阜城からの眺望に感動しながらも、来年の開催へ向けて福島県民の「私にできること」がたくさん結集し、全国大会が開催されることを願いつつ視察を終えました。

皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

ふくしま NPO ネットワークセンター常務理事
齋藤 美佐



ぎふ大会キャラクター
「ともこん」&「キビタン」は
会場でも人気者

ふくしま元気市民活動助成金
助成対象団体

- 「虹色クリーンリレー」
公益社団法人だて青年会議所
- 「ふくしま旧家の歴史に係る記録・編集事業」
ふくしまの旧家を活かす会
- 「花いっぱい運動」
三島町宮下地区

ふくぎんみんなのサポート市民活動助成金
助成対象団体

- 「福島市内の児童養護施設、保育園、幼稚園など
に対する専門家派遣事業と海外交流事業」
こどもの笑顔 The BIG K.I.S.S. プロジェクト
- 「子育てをもっと楽しむ絵本の世界の講演・読み聞
かせ・交流会～こんなに深い絵本のメッセージ～」
郡山子ども図書館応援団がらがらどん
- 「シニア向けタブレット体験講習会開催事業」
特定非営利活動法人ウェブストーリー

弊会が認定NPO法人として認定されたことを記念して創設した「ふくしま元気市民活動助成金」の募集も今年で6年目となりました。私が担当したのは震災の次の年からでしたが、その年から福島銀行さんと一緒に募集をすることになり3年目となります。当初は東北地区に限って募集をしておりましたが、昨年からは福島県内全域を募集対象とし、最近では毎年10～20件程度の応募を頂くまで認知されてきているようです。

今年は11月14日までの応募期間の間に、弊会の「ふくしま元気市民活動助成金」と福島銀行さんの「ふくぎんみんなのサポート市民活動助成金」に合わせて14団体からの応募があり、12月10日に選考委員による選考会が開かれ、それぞれ3団体ずつが採択されました。今回は東北地域以外からの募集が増えてきた印象があり、募集対象地域を拡大して良かったと感じております。

また、県内に弊会の中間支援NPOとしての役割も認知されてきており、元気市民活動助成金もある程度お役にたっているように感じているところです。震災の復興需要が収まる方向へ進んでい

く中で、元気市民活動助成金の果たす役割はますます重要性を増すことと思われま

す。中間支援NPOとしての元気市民活動助成金の意義を改めて確認し、今後も募集をしていく所存ですが、皆様からの寄付が財源となっていることもあり、更なるご支援を賜りたくお願いを申し上げます。

ふくしまNPOネットワークセンター
理事 菅野 真



開会の挨拶をする星野理事長



選考委員長よりの挨拶



選考委員の皆さん、長時間お疲れさまでした

「助成財団シンポジウムinふくしま」

平成26年9月6日(土)、福島市市民活動サポートセンターにおいて「助成財団シンポジウムin 福島」が開催された。これは、ふくしまNPOネットワークセンターとNPO支援財団研究会が共催で、福島県や福島市、福島県内各地域の中間支援センターなどの協力のもとに行われた。このシンポジウムには、県内外から10団体を超える助成財団や助成プログラムの事務局を担う組織が参加し、100名を超える参加者で会場は埋め尽くされた。

シンポジウムは5つの内容で構成されており、1部は「助成金の基礎を知る」をテーマとしたNPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 代表理事 松原明氏による講演会。2部は、助成財団と助成をされた3団体による事例報告



メモを取りながら真剣な参加者たち



情報交換と交流の場になった5部の会場内のようす

会。3部・4部は、助成財団がそれぞれのプログラムについて説明及び参加者との意見交換と現在利用できる基金や助成金・補助金についての情報提供。5部では各助成元がブースを設け、参加者が軽食をとりながら気軽に相談できる名刺交換会を行い、直接助成財団と情報交換しようとする参加者の姿で会場はいっぱいになった。

この助成財団シンポジウムの開催により、「助成する側も福島の活動団体と会話をすることで、今後の助成プログラムや申請書類を選定する上での参考になった。」と、NPO支援研究会代表の田中皓氏は語っていた。このシンポジウムが是非、福島の復興につながることを期待したい。

福島市市民活動サポートセンター チーフ
内山 愛美

ふくサポ講座案内

オープンセミナー

『共感と協力を引き出すための

パブリックスピーキング入門』

パブリックスピーキングとはリーダーに求められる「人を動かすためのコミュニケーション術」です。「人はどうしたら共感し、行動してくれるのか？」などをテーマにワークショップも交えながら、講演・記者会見などのフォーマルなシーンから、朝礼や結婚式の祝辞などのプライベートシーンまで幅広くアドバイスをしてきた講師が講義します。きっと明日から共感者を得るヒントになるはずです。

●講師：蔭山 洋介 氏

スピーチライター・株式会社コムニス代表取締役

●日時：平成27年1月30日(金) 13:30～15:30

●会場：福島市アクティブシニアセンターA・O・Z

●定員：50名

ふくサポ実践講座『広報講座』

～広報のコツ～

広報のプロを講師にむかえ、実践向けにワークショップ形式で、テーマに沿った手づくりのポップやチラシ等をグループ単位で作成します。楽しみながら広報のコツを学んでください。手づくりでできる効果的な広報がきっと見つかるはずです。

●講師：林 善克 氏

タカラ印刷株式会社 伝わるデザイン研究室

●日時：平成26年12月20日(土) 13:30～15:30

●会場：福島市市民活動サポートセンター 会議室

●定員：30名程度

●参加費：500円(資料代等)

お申し込み、お問い合わせ先は下記の通りです。

■福島市市民活動サポートセンター

TEL：024-526-4533

助成金情報をキャッチしよう！

各種助成金に申請をされている団体は多いと思いますが、採択されるためにはコツがあるようです。その助成元を良く知り、その助成プログラムの意図を理解し、自組織や事業を正確に伝えることです。助成金申請のための講座なども開催されていますので、コツを学んでからチャレンジするのもいいかもしれません。

現在募集中の助成金の情報は、福島市市民活動サポートセンターで発行している『ふくサポ通信』や、ふくしま地域活動団体サポートセンターのニュースレター及びホームページにもアップされています。応募の期間や対象事業はさまざまです。たくさんの情報の中から条件に合った助成先を見つけて活用してみてください。

コチラをチェック！

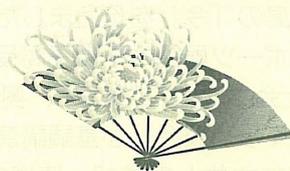
- 福島市市民活動サポートセンター
<http://www.f-ssc.jp/?cat=9>
- ふくしま地域活動団体サポートセンター
<http://f-saposen.jp/category/subsidy/>

理事長より年末のご挨拶

早いもので、また、「師が走る」季節が回ってきました。ふくしま NPO ネットワークセンターも、活動を始めてから丁度 15 年の節目を迎えようとしています。10 周年を迎えた時点では、通常の活動に追われ、振り返りをする余裕すらなく、何もせずあっという間に過ぎてしまいました。次の節目である 20 周年を迎える頃には、おそらくメンバーも大きく入れ替わって世代交代しているのではないかと想像しています。

15 年周年を迎えるに当たり、当センターの歩みを振り返りながら、今後の方向について皆で見通してみたいと思っています。皆さんの企画提案も歓迎したいと思います。

ふくしま NPO ネットワークセンター 理事長
星野 珙二



福島県より受託、運営している施設

- ◆ふくしま地域活動団体サポートセンター
〒960-8043
福島市中町 8-2 福島県自治会館 7F
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741
URL <http://www.f-npo.jp/saposen/>
E-mail saposen@f-npo.jp

福島市の指定管理者制度で運営している施設

- ◆福島市市民活動サポートセンター
〒960-8041
福島市大町 4-15 チェンバおおまち 3F
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560
URL <http://www.f-ssc.jp>
E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp

福島市より受託、運営している施設

- ◆まちの駅 ふくしま情報ステーション
〒960-8053
福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 1F
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027
URL <http://www.machi-fukushima.jp>
E-mail info@machi-fukushima.jp

自主事業及び助成事業として運営している施設

- ◆チョコラボ・ふくふくプロジェクト事務局
〒960-8031
福島市栄町 10-3 キッチンガーデンビル 3F
TEL 024-521-9311 FAX 024-521-9311
E-mail fpic@fukufuku-project.net

編集後記

- 今年も残りわずかとなり、1 年ってホント早いなぁと悔やまれる今日この頃です。毎年、来年こそは充実した 1 年にと誓うのですが…。よし！来年こそは!! (根本)
- 冬支度ができていないというのに気付けば師走。この冬は暖冬という噂も聞きましたが、年齢と共に寒さが辛く感じます。すでに春が待ち遠しい! (大山)
- 去年の今頃は福島に住むとは想像もしていませんでした。色々あった 1 年ですが、周囲に助けられて何とか過ごせました。来年は更に充実するよう頑張ります。(古屋)

編集・発行

認定特定非営利活動法人
ふくしま NPO ネットワークセンター
.....
〒960-8034 福島市置賜町 1-29 佐平ビル 8F
TEL : 024-528-1211
FAX : 024-528-1218
E-mail : center@f-npo.jp
URL : <http://www.f-npo.jp/>